

情報メディア学科 成績に関する説明

【3年生】

情報メディア学科 教務委員

保証人の皆様

ここでは、情報メディア学科の学生として充実した学修ができるよう、学科のカリキュラム編成の特徴や、それに向けた必要事項・注意点・その他の留意事項を含めて解説いたします。

はじめに・・

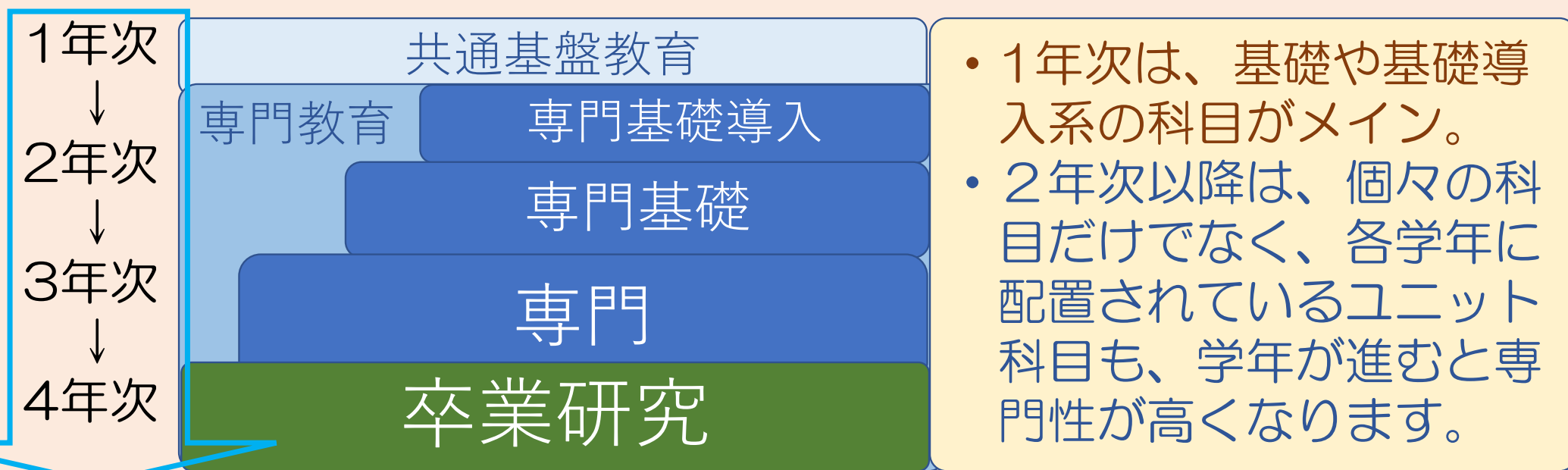
情報メディア学科の特色として、情報メディアに関する様々な分野の教員が集まっています。それぞれが相互に関わることで、各専門分野の枠を超えた発展を目指し、それぞれのスペシャリストとなる人材育成を行っています。

そこで、個々の学生が志望する専門分野の科目だけでなく、関連する幅広い学修ができるようにするため、1本筋ではないカリキュラム構成となっています。

高校までのような、単位修得だけを目標としてしまうと、学科の特色を活かすことはできません。その点を踏まえて解説する内容をご理解下さい。

カリキュラムの基本

学科ごとのカリキュラムの前段として、大学全体のカリキュラムが存在しています。1年次の基礎や基礎導入系の科目から、学年進行に合わせて専門性が高くなるように設定されています。



並行して、各学期に、ユニットプログラム科目が配置されています。

情報メディア学科の特色と研究室

情報メディア学科には、情報メディアに関する様々な分野の研究室があります。

ヒューマンメディア ゲームメディア
ビジュアルメディア サウンドメディア 等・・・

また、それぞれの分野においても、情報技術・制作技術など、研究の方向性も様々であり、研究室ごとに特色があります。2025年度現在では、17の研究室があり、それぞれで充実した教育・研究を行っています。情報メディア学科のカリキュラムは、それら研究室への配属に関連の深い内容となっています。単位修得だけを目標とせず、学科の特色を活かされる履修計画を推奨しています。

希望する研究室を目指すために

卒業研究において、研究に必要とされる専門の知識や技術は、研究室によって様々です。そのため、配属されるまでに、志望する専門分野に見合った専門科目の修得や学修をしておくことが重要です。

配属先が決まるのは、3年後期初頭です。それまでの履修科目の選択や、ユニット科目での演習項目の選択が、配属される研究室に大きく影響することとなります。よって、3年前期までも、目指す専門分野に向けて、各自が吟味して科目を履修しておくことが重要になります。

それぞれの専門分野の履修推奨科目については、履修要綱のカリキュラムツリーをご確認下さい。

3年次の注意事項

3年次後期は、4年次の卒業研究に向け、志望する専門分野へ踏み込むこととなります。

3年後期のユニット科目では、研究室に配属されプレ卒研をします。卒業研究に向けて重要な内容であり、座学や演習といった、いわゆる「言われたことをこなす」授業から、研究開発に一步進んだ内容で、企画・計画・実践・応用など、個々が積極的に取り組む意識が必要となります。それらは就職活動や、就業してからも必要となるスキルです。将来に向け大きな成果を得られるよう意識を持って取り組む必要があります。

また、3年終了時に「卒業研究履修の資格」をクリアしていなければ、留年となるため特に注意が必要です。

卒業研究履修の資格

3年後期終了時にこの資格をクリアしていなければ、4年次に卒業研究を履修できず留年となります。ルールそのものは単純です。

- 104単位以上単位を取得していること
- 3年次までの以下の必修科目を全て単位取得していること
（「情報社会と情報倫理」以外の必修科目）

スタディスキル
現代社会講座
身の回りの数学
実感する科学Ⅰ
情報リテラシー
キャリア設計
キャリア開発

ＩＴ基礎
情報メディア基盤ユニット
情報メディア導入ユニット
情報メディア基礎ユニットⅠ
情報メディア基礎ユニットⅡ
情報メディア専門ユニットⅠ
情報メディア専門ユニットⅡ

卒業要件

4年終了時に卒業するためには、卒業要件をクリアする必要があります。卒業研究履修の資格をクリアして卒業研究を履修するだけでは、卒業要件を充足していないかも知れません。

- 卒業研究に関する科目を含め124単位以上取得する必要があります。（卒研以外に116単位が必要）
- 英語科目など、共通基盤の科目の必要単位数もクリアしなければなりません。（履修要綱を参照）

※ この条件をクリアできていない場合、4年次に卒業研究を修了できても、卒業できず留年となります。

余裕を持って卒業研究に挑むためには、3年次中に卒業研究以外の要件を全てクリアしていることが望ましいです。

研究室への配属

後期のユニット科目では、4年次の卒業研究に繋がる研究室へ配属します。個々の学生の単位取得状況や卒業研究履修の資格の達成度合いの違いなどにより配属方法が違い、少々仕組みが複雑です。そのため各自が該当する指示を取りこぼさないよう、十分注意が必要です。

順当に進めば4年終了時までの1年半、上記で配属された研究室に所属することとなります。配属人数には定員が設けられているため志望者数の多い研究室を志望する場合、希望通りの配属になるとは限りません。教員も可能な限り学生とのマッチングを図りたいと考えており、配属を決める期間中に個別に細かい指示が出されることがあります。お互いのためにも、そういった指示を取りこぼさないよう、注意が必要です。

就職活動について

近年、就職活動の時期が早まり、既に就職活動が始まっています。また、インターンシップを採用活動に含む企業が増えてきています。

情報メディア学科でも多くの学生が参加しています。積極的に参加することで、就職活動に対する意識の向上や、就職活動のスキルも磨かれます。ただ、授業と並行してこなすことになるため、負荷が大きくなることへの留意も必要です。

就職活動は、学生にとって初めての体験でもあり、精神的にも体感したことのない負荷がかかることになります。是非、家族間でも就職活動の情報を共有し、状況について気にかけてあげて下さい。

留年してしまった学生さんへの注意事項

現在、卒業研究着手の資格を満たせず、3年次留年となっていてしまっている人は、**本来のカリキュラムの流れからは外れてしまっています**。そのため卒業に向け**重要となる科目や、研究室配属**など、**順当な学生とは異なる状況**となっています。

よって各自が、**状況の認識**とともに、**必要な情報を受け取ることへ、より強く意識を持たなければなりません**。特に、休学をしている学生や欠席の多い学生は、**重要な情報を取りこぼしがち**です。

是非、単位取得の状況や今後の履修計画について、**クラス担任と連絡・相談**をして下さい。

Zoomなどでの個別相談も可能です。まずメールで**面談希望日時を複数連絡**して下さい。

次年度に卒研着手が見込めるようになってきたら…

（現在休学中の人も含む）

◇就職活動に向けて

卒業への見通しがついてくると、就職活動への動き出しが必要になります。就職ガイダンスなどに参加して情報収集していきましょう。

◇卒業研究に向けて

3年後期の専門ユニットIIで、卒研の1次配属を行います。既に該当科目を合格している学生や、休学中で次年度復学予定の学生も、配属に関するアナウンスに注意をして、積極的に4年次に入りたい研究室の先生と話をしておきましょう。

- 手続き上、正式な配属は4年進級時の4月になりますが、希望する研究室につながりを作っておくことが大切です。

TOEICについて

TOEICの点数の取得は、本学の大学院進学において必須要件であり、また就職活動時にも、企業から選考のためにスコアの提出を求められることも増えてきています。

TOEICの点数は、1回目より2回目のほうがスコアが伸びる傾向もあります。是非、早めに対策し、受験をしておくことをお勧めします。

本学では、いろいろなタイミングで受験を勧めていますが、保証人の皆様からも、是非受験意欲につながるお声かけをお願いします。

科目で不合格にならないためには

高校までと違い、大学では科目ごとに担当する教員が別々です。また、クラス担任も直接個々の科目に関わることはありません。よって科目ごとの注意事項や必須事項など、各自が自覚・認識して授業に取り組む姿勢が必要です。それが無いと、本人にそのつもりがなくても不合格となってしまうこともあります。そうならないための要点は以下の通りです。

◇指示や、提示する注意事項・必須事項を正確に把握する

指示された内容と違う形で労力を使っても不合格になります。もしそれらが不明瞭であるなら、必ずその担当教員に問い合わせや質問をして解決して取り組みましょう。

科目で不合格にならないためには

◇全ての回の授業に出席する

特に演習系の授業は、積み上げ式で順を追ってスキルアップしていく授業内容となっているため、**休んでしまうと、ついて行けなくなる**可能性が高いです。もし、やむを得ず欠席してしまった場合には、その分を**次週までに挽回**しておくことも重要です。

◇提出物は必ず提出する

提出物が1つでも**未提出の場合、不合格**となる科目は多数あります。**指示と違った内容で提出しても同様**です。また、提出期限が守れない、**提出方法の理解不足や提出ミス**も多く、これらも減点対象となる場合が殆どです。

科目で不合格にならないためには

近年、口頭や配布資料による指示や注意事項を取りこぼし、成績に影響を与えてしまうケースが多くなっています。このことは、前述した3つのことへも大きく影響しています。

大学の授業は、履修者が多数になる科目も多く、「あとで聞き直す」ことが困難な形態です。そのため各自が、資料の読解や、授業中の集中力の必要性について、理解を高めなければなりません。

またAI使用による課題への取り組みの弊害もあり、授業時間中や授業に対する集中力が下がっているのではないかという事象が多くなってきています。是非、授業に対して意識を持って取り組むようお声掛けをお願いします。

授業の欠席連絡や質問について

体調不良などによる授業の欠席連絡について、教務課や学生課へ寄せられるケースがあります。しかし欠席時の対応の方法は個々の科目によって違い、教務課や学生課、クラス担任などは、それらを把握しておりません。

もし、授業内容について連絡が必要と思われる場合は、それぞれの科目の担当教員へ、直接メールなどで相談して下さい。

欠席連絡の有無に関わらず、演習科目など、以降の授業についていくためには、学生本人による挽回が必須になります。

もし、コロナ感染やインフルエンザ感染など一定期間欠席となってしまう場合は、学生課へ連絡して下さい。そうすることで、履修科目担当教員へ一斉に連絡されます。

情報発信について

【全体向けの連絡】

大学や学科、個々の科目などからの全体への情報は、基本的にMoodle等のオンラインでの提供となります。Moodle上の学科掲示板や学年ごとの掲示板、科目のコースなどを小まめにチェックし、重要な情報を取りこぼさないよう注視が必要です。

【個人向けの連絡】

教員や事務からの個別の連絡メールは、学籍番号@cco…のメールアドレスに届きます。緊急の連絡に対応できるよう、常に受信する設定にし、日々の確認が必要です。

なお教員へのメール連絡は、特に指示が無い限り、@ic.kanagawa-it.ac.jp のアドレスへの送信となります。

資格取得と単位認定について

資格は実社会に出てからも活かすことのできるものです。特に、情報学部における情報系の資格や、情報メディア学科における情報メディア系の資格を取得していると、就職活動で有利に働きます。そのため、資格取得を考えているのであれば、3年前期までに取得しておくことで就職活動に活かせます。

また、大学では資格取得を支援しており、合格した資格の受験料の給付や、大学が認めた資格についての単位認定をしています。（詳細はKaitWalkerか履修要綱を参照）

単位認定を希望する場合、申請期間内（2月初旬まで）に届け出が必要です。合格証が間に合わない場合は、次年度の認定となります。（期間などの詳細は教務科まで）

以上となりますが、保証人の皆様より、気になることが御座いましたら、クラス担任までお気軽にご相談下さい。

クラス担任への連絡方法が不明な際には、
学生課: 046-241-9394 までご連絡下さい。

なお教務課による、成績表の見方などの解説も併せてご確認ください。

情報メディア学科
教務委員